スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

新潟県佐渡市

自 治 体 名 ： 新潟県佐渡市
担 当 課 名 ： 教育委員会社会教育課
電 話 番 号 ： 0259-58-7356

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	955㎢
人口	47,496人
公立中学校数	12校
公立中学校生徒数	1,045人
部活動数 （運動部活動のみ）	61部活
地域クラブ活動数	39クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

佐渡市では、生徒数の減少による統廃合が進み、それに伴う教員数の減少や取組める部活動の選択肢が限られるといった現状があり、年々部活動を取り巻く環境は厳しくなっている。具体的には、次のような状況が起こっている。

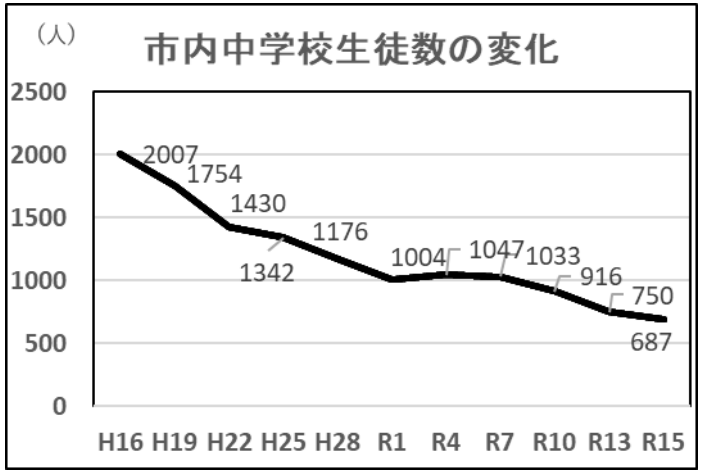
- 複式学級を有する小中連携校が4校で、スポーツの部活動は個人出場可能な1～2種目に限られている。
- 生徒数の減少に伴い、野球やバレーボール、バスケットボール等の団体種目では単独校での出場がかなわず複数校でチームを組むケースが見られる。

そこで、国や県の方針に沿って休日の部活動を地域に展開する取組を早急に進めることにした。部活動を地域に展開するにあたり、学校と地域が協力し合い、生徒が望むスポーツ・文化活動の環境をいかにして構築していくかが重要となる。

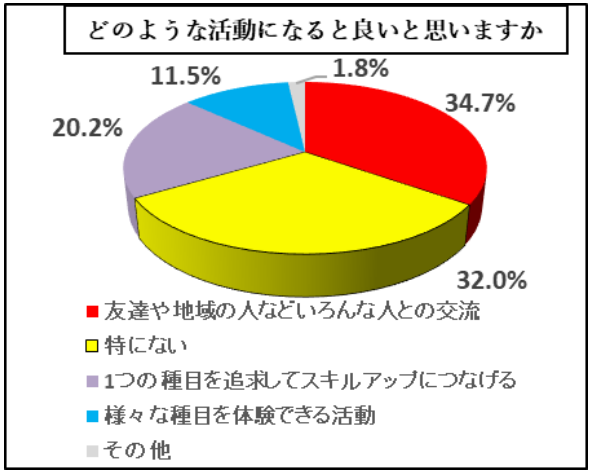
令和6年12月に「地域クラブ活動に関するアンケート調査」を実施し、生徒の希望調査をした。その結果、多様な人との交流を望む生徒が34.7%、スキルアップを望む生徒が20.2%と高くなっている。

多様な人との交流を可能にするためには単発で参加できる種目数を多くすることと参加者を多くする必要がある。また、スキルアップを達成するためには年間を通して同じ種目に取組めることと、練習回数を多く設定する必要がある。

これらの生徒の要望を可能にすべく、土日の活動回数を月3回に増やすことと新たな種目を加えること、小学5、6年生の参加も可能にし、異年齢交流の機会を増やすことで昨年以上の参加生徒を目指すことにした。



佐渡市教育委員会資料



佐渡市教育委員会資料

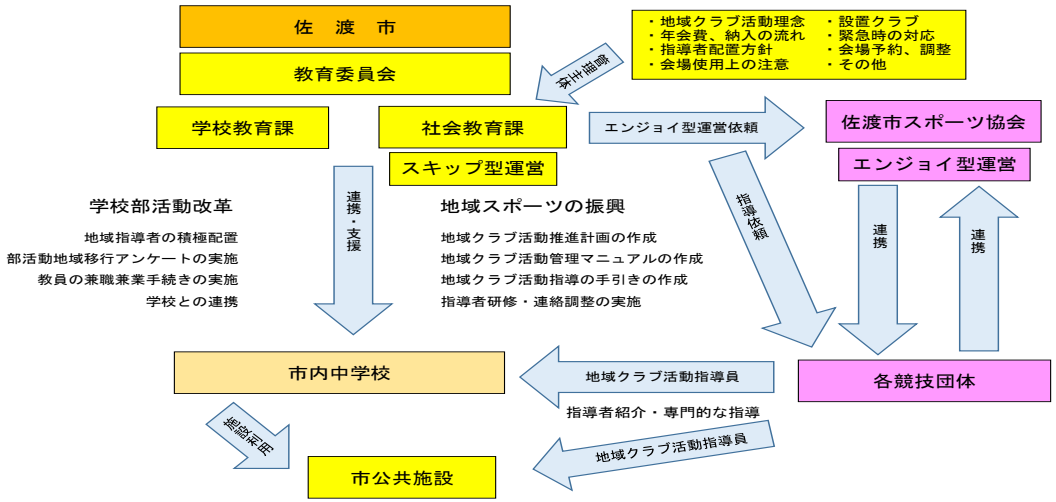
2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図

（運営体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課）

- 市内公立中学校、中等教育学校、特別支援学校との連絡調整を図り「地域クラブ活動」の参加募集を募る。
- 佐渡市地域クラブ活動推進協議会の事務を担当し、開催案内と当日の進行を進める。

◉教育委員会（社会教育課）

- 佐渡市スポーツ協会や各スポーツ団体と協議し、地域クラブ活動の具体的な活動の企画運営を担当する。
- 佐渡市地域クラブ活動の計画を立案し、募集案内を作成する。

○コーディネーター

- 市内公立中学校、中等教育学校、特別支援学校からの参加者を集計するとともに、指導者に連絡し、会場を予約する。

年間の事業スケジュール

令和7年4月	佐渡市地域クラブ活動募集開始
令和7年5月	指導者研修会
令和7年5月	第1回佐渡市地域クラブ活動推進協議会
令和7年5月	佐渡市地域クラブ活動開始
令和7年8月	スポーツ国際交流員SEA1名来日
令和7年12月	第2回佐渡市地域クラブ活動推進協議会
令和7年12月	地域クラブ活動に関するアンケート調査
令和8年2月	第3回佐渡市地域クラブ活動推進協議会
令和8年2月	SEAによる指導者技術指導研修会実施（野球・卓球）
令和8年3月	第4回佐渡市地域クラブ活動推進協議会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		39クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		21クラブ（39部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		18クラブ
全体の指導者数	157人	全体の運営スタッフ数	6人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
バレーボールクラブ	バレーボール協会	バレーボール	・平日　0回 ・休日　月3回	13:00～16:00	1年　11人 2年　5人 3年　2人	5月～3月	4人	4人 （内、兼務4人）	5,000円/年額	大会参加なし
ソフトテニスクラブ	ソフトテニス連盟	ソフトテニス	・平日　0回 ・休日　月3回	9:00～12:00	1年　18人 2年　20人 3年　14人	5月～3月	14人	4人 （内、兼務4人）	5,000円/年額	大会参加なし
マリンスポーツクラブ	サードフィールドさど	レガッタ、ヨット、カヌー、サップ	・平日　0回 ・休日　4回	9:00～12:00	小学5年2人 小学6年2人 1年　1人 2年　1人 3年　2人	7月～9月	17人	6人 （内、兼務6人）	5,000円/年額 500円/1回	大会参加なし

2.実証内容と成果

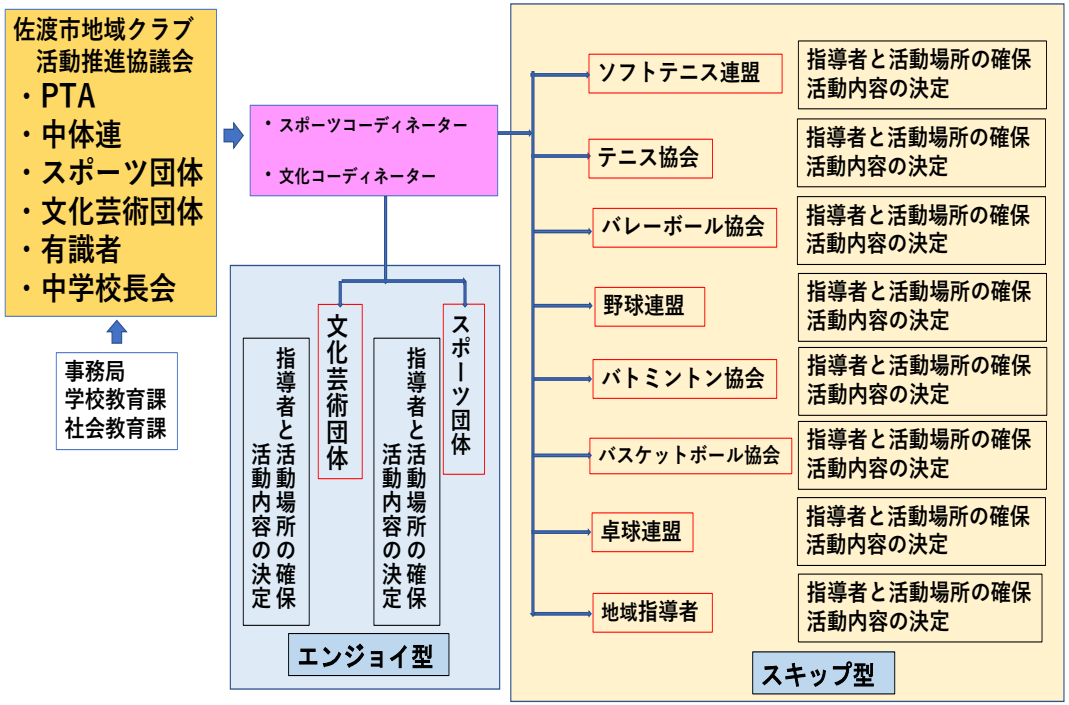
スポーツ庁

主な取組例

●バレーボールクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	バレーボール協会
期間と日数	月3回
指導者の主な属性	市バレーボール協会、中学校教員
活動場所	金井中学校体育館
主な移動手段	徒歩、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	年間5,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者　2名（社会教育課　補佐と主任）
　役割：活動における管理者として全体の総括を行う
●スポーツコーディネーター　1名
　役割：会場予約、指導者との連携、各種調整を行う
●主任指導者　3名
　役割：活動における主任者として生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○ 地域クラブ活動に参加可能な競技団体を選定する際には、佐渡市スポーツ協会と協議して決定した。また、エンジョイ種目については、佐渡市スポーツ協会に運営を依頼することにした。そのため、新たな地域クラブ活動の種目の発掘が可能となった。

○ スポーツコーディネーターが、学校や各スポーツ団体、及び参加生徒との連絡調整を行ったり、種目ごとの会場予約をしたりし、地域クラブ活動がスムーズに実施できるように取組んだ。

取組の成果

○ 佐渡市スポーツ協会の専務理事を佐渡市地域クラブ活動推進協議会の協議会長に据えることにより、この活動にイニシアチブをもつとともに地域移行の取組とスポーツ協会との結びつきを強固にできるように図っている。佐渡市スポーツ協会にエンジョイ種目を委託することによって加盟する多くのスポーツ団体を活かし、部活動の種目に無い活動が可能となった。

○ スポーツコーディネーターが参加生徒や指導者との丁寧な連絡調整を行うことによって徐々に参加者数が増えている。令和6年度の実績としてスキップ型245名、エンジョイ型264名だったが、令和7年度は、スキップ型223名、エンジョイ型が391名にまで増加している。

今後の取組における課題

○ 今年度は、月3回の土日の実施だったが、会場の選定に苦労した。特に、雨天時には、屋外の活動種目を屋内に変更する必要があり、会場予約が難しくなった。来年度は週休日の完全実施を予定しており、さらに会場の選定が難しくなる。

○ 佐渡市スポーツ協会と連携して取組んできたが、佐渡市スポーツ協会の人員が削減されることになり、委託してきたエンジョイ種目全てを運営することが難しくなることが想定される。

○ 今年度実施してきた種目の指導者の中には、月3回が限界であり、月4回は無理との声も出ている。来年度に向けて指導者の確保と種目ごとに実施回数を変える取組が必要となる。

課題への対応方針

●来年度の週休日完全実施に向けて多くの課題が想定されている。

- スポーツ協会と連携しながら一層指導者の確保に努めていく。
- 指導者に対する希望調査を実施して種目ごとに実施可能な回数を決定する。
- コーディネーターを中心に会場の確保に努める。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

【スポーツコーディネーター】

- 全ての参加者と指導者の名簿を作成し、スポーツ保険を掛ける作業をしている。
- 新種目や小学生が実施されるときには必ず参観し、参加者の感想を記録したり課題のヒアリングをしたりしている。
- 学校、参加者、指導者への連絡調整を実施している、特に雨天時の外での種目に対して会場の変更に努めている。

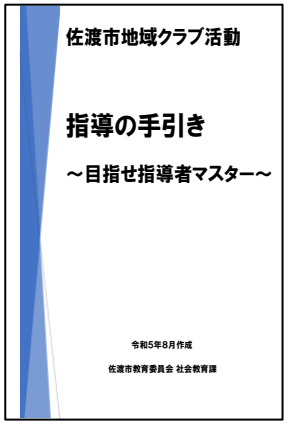
地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

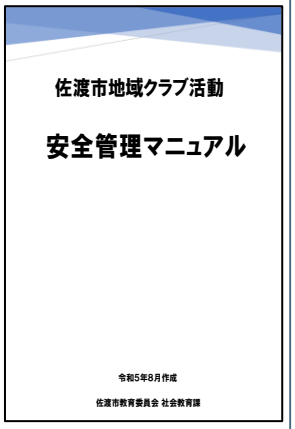
- 各種目の指導者と事前に協議し、必要な服装や道具があれば参加者に連絡して当日の服装や準備用具を依頼している。
- 気象状況等による日程や会場変更があった際には、事前に参加者や指導者に連絡して活動がスムーズに実施できるように努めている。
- 種目、会場ごとに参加者名簿や活動日誌を整理し、参加状況や活動内容を把握するとともに、指導者との情報共有や事業実績の集約を円滑に行っている。
- 学校教育課が運用する保護者連絡アプリを活用し、地域クラブ活動たよりとあわせて募集案内等を一斉配信することで、周知に係る事務負担の軽減及び情報伝達の迅速化を図っている。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

指導者には、「安全管理マニュアル」と「指導の手引き」を渡している。この冊子には、事故や災害等があった際の対応を示したり、中学生に対する指導の注意事項を示したりしている。

この冊子を渡して3年目となるが、熱中症予防や落雷への注意事項を新たに加えて注意喚起をしている。各指導者には危機管理の意識と生徒への指導に対する責任をもつように努めている。





地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

毎回「佐渡市地域クラブ活動　活動日誌」をつけたり、生徒、保護者、指導者に感想を記載してもらったりしている。この取組により、教育委員会では毎回その日に発生した事故やトラブルの把握に努めている。また、緊急を要する際にはすぐに教育委員会の担当者に連絡が届くようにしている。今年度も大きな事故やトラブルは発生していない。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

部活動と同じ種目のスキップ型については、スポーツ協会の加盟団体に依頼し、会場数に見合った指導者の確保を依頼した。中心地から遠方の学校については学校の教員に兼職兼業を依頼したり地域の人材に依頼したりして指導者を確保した。部活動には無い種目のエンジョイ型については、スポーツ協会に種目の選定とともに指導者の確保を依頼した。

技術指導については、採用したSEA（スポーツ国際交流員）3名による新たな技術やトレーニング方法を学ぶことができる研修会を実施した。

今後の取組における課題

令和8年度は、土日の地域クラブ活動完全実施に向けて取組んでいるが、指導者の確保が重要な課題となっている。スポーツの経験者であれば良いというのではなく、指導者としての適格性を担保した人材が必要である。また、今後、平日の実施を可能にするための指導者確保も検討が必要である。離島であるため、広域的な協力も得られない状況下なので各スポーツ団体と協力しながら新たな指導者の育成に努めていきたい。

取組の成果

佐渡市スポーツ協会と連携して取組んできた結果、地域クラブ活動に関わる指導者が157人となり昨年度に比べて8人増加した。種目数も21から22とわずかではあるが増やすことができた。その結果、参加する生徒数も多くなり、エンジョイ型では77人増（延べ人数）となっている。

SEA3名については、普段から部活動や地域クラブ活動の指導補助に努めている。各指導者からは、新たな指導方法を学んだり個々の生徒の指導を得たりできて好評を得ている。2月の技術指導の研修会（野球と卓球）では、佐渡市の実態に即した説明を受けることができた。

課題への対応方針

○ 現在、各種目の支援として活動しているSEAを指導者としての配置を検討したい。SEAであれば平日の指導も可能であるためどのような活用が可能であるか協議していきたい。

○ 指導者の質の保障に関しては、来年度も新潟医療福祉大学に依頼して中学生に対する対応の仕方の研修を実施する。各種目の技術指導に関しても、専門の指導者を依頼して研修会を実施する予定である。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

○ 佐渡市スポーツ協会は多くのスポーツ団体が加盟しているのでエンジョイ種目に関しては、スポーツ協会に委託し、加盟団体から指導者を選定してもらうことで指導者の確保を可能にしている。
○ 新種目のボッチャについては、教育委員会が直接佐渡市障がい者スポーツ協会に依頼することで実施することができた。
○ 広報紙彩ホームページ、ケーブルテレビ等を活用して地域クラブ活動を周知してきた結果、硬式テニス等は、指導者の方から新たな種目に採用してほしいとの依頼があった。

指導者研修の内容

研修名	佐渡市地域クラブ活動指導者研修会
講師	新潟医療福祉大学　教授　西原　康行　様
研修内容	1　講演「子どもの豊かなスポーツ環境の創造に向けて」 ～地域におけるスポーツ指導者の役割～ 2　説明「佐渡市地域クラブ活動について」 ・安全管理マニュアルの説明 ・指導の手引きの説明 3　その他　地域クラブ活動の手続

指導者研修受講者の声

○ 部活動が置かれている状況が自分が思っていたよりも難しくなっていることが分かった。
○ 隣の人と話し合うことで種目が違うと考え方が違って参考になった。
○ 一人一人の子どもの特徴をよく見て指導しなければならない。



指導者研修会の様子

●参加者の声

参加者①
質問：エンジョイ種目で3回実施する場合1回目から2回目、2回目から3回目は段階的に内容を変える必要はあるのか？
回答：子どもたちの飽きや成長を考慮し、指導者がステップアップできるような指示を出すことがもとめられている。

参加者②
質問：私の種目は1回だけの活動が、本人の希望があれば独自にその後も一緒に活動しても良いか？
回答：地域クラブ活動としては1回限りだが、本人や保護者の意向を確認した上で活動仲間として進めても良い。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツコーディネーターが、全ての種目について、参加者と指導者との連絡調整をするとともに会場予約を担当した。新種目については、当日の立ち合いも行った。

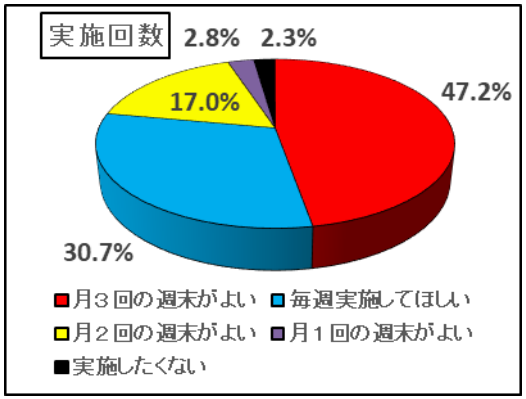
佐渡市スポーツ協会には、エンジョイ種目について運営の委託をした。今年度は小学5・6年生の参加も実現した。



佐渡市教育委員会作成ポスター

今後の取組における課題

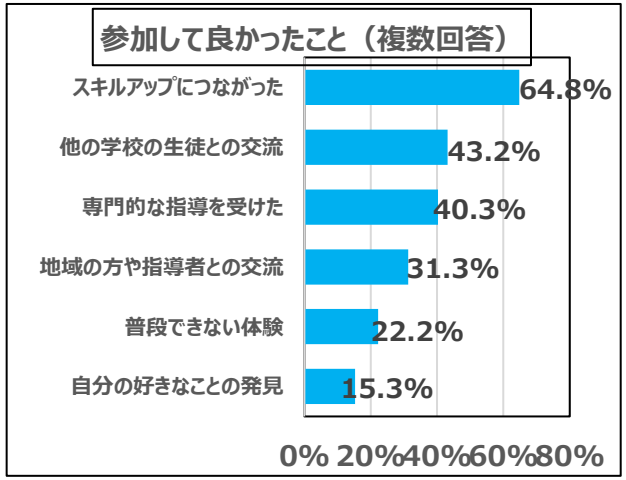
令和7年度に実施したアンケート調査では、地域クラブ活動の回数について、月3回と毎週で約78%となっている。今年度以上の実施回数を可能にするためには、佐渡市スポーツ協会や各種目の団体との連携が欠かせない。



佐渡市教育委員会資料

取組の成果

令和7年度に実施したアンケート調査から、参加者は地域クラブ活動の内容に満足している様子が分かる。活動がスムーズに実施できていることが好評価につながっている。



佐渡市教育委員会資料

課題への対応方針

○ 来年度は、実施回数を増やす予定となっている。スムーズな実施を可能にするためにはスポーツコーディネーターの役割が重要である。文化コーディネーターと互いに協力し補完しながら進めることで土日の完全実施を図りたい。

○ エンジョイ種目に関しては、来年度も佐渡市スポーツ協会に委託して実施したい。今までは、運営団体の方で日時と回数を指定し、4種目ごとに配置してきたが、令和8年度には、指導者の意向を十分に把握し、持続可能な回数と日時の設定を行う。全種目のスケジュール一覧表は教育委員会で作成する予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

市区町村等を越えた取組

○ 新潟市との広域連携事業として佐渡市の地域クラブ活動に新潟市の中学生の参加を募集することにした。ねらいとしては、次の3点を掲げて計画を進めた。

1．ねらい

- 新潟市と連携した取組を進めることにより、両市の交流が深まり、人的にも内容の面でもさらに充実した活動へと高めることが期待できる。
- 新潟市の中学生の参加を募集することにより、多くの人との交流を望んでいる佐渡市の中学生の社会性の広がりを期待できる。
- 佐渡市の地域クラブ活動を体験することにより、新潟市の生徒にも佐渡の自然と伝統文化の良さを伝えることができる。

2．内容

- 新潟市の生徒が参加しやすいように、また、家族旅行に付加して参加できるように夏休み期間中と9月の連休中に募集する。
- エンジョイ型の中で佐渡ならではの種目としてマリンスポーツと人形芝居の2種目について参加者を募集する。
- 新潟市の生徒と佐渡市の生徒が自然に交流できるように練習内容や活動方法の工夫を指導者に依頼する。

○ チラシを作成して新潟市の地域クラブ活動のホームページに掲載したが今年度の参加者は無かった。



佐渡市教育委員会資料

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和7年度は、5月から月3回の休日を部活動休止日とし、地域クラブ活動を実施している。現在まで大きなトラブルや事故もなく予定通り実施することができている。

指導者に対する研修も島外から指導者を招いて質の高い研修会を実施することができた。大学の教授を講師として中学生への対応の仕方を学び充実した内容の研修にすることができた。

評価活動としては、活動終了後に生徒や指導者、保護者に毎回感想を書いてもらっている。記載内容を見ると、活動に満足している様子や指導者に感謝するコメントがほとんどであり、充実した活動が進められてきている様子が分かる。

会場の確保については、コーディネーターが担当し、事前に調整を済ませることで確実に実施できている。ただ、実施回数が増えていることで会場確保は難しくなってきている。

周知活動については、ポスターの作成やホームページの更新、年11回のたよりの発行も予定通り進んでいる。さらに、ケーブルテレビが地域クラブ活動を紹介する等市民への周知活動も充実してきている。

●成果の評価

中学生の参加者については、令和5年度スキップ型が191人、エンジョイ型が99人（延べ人数）となっていたが、令和6年度には、スキップ型が245人、エンジョイ型が264人（延べ人数）、令和7年度にはスキップ型が223人、エンジョイ型が391人（延べ人数）とかなり増えてきている。また、指導者数においても、令和5年度116人だったのが令和6年度195人、令和7年度243人と伸ばすことができた。地域クラブ活動の周知がだいぶ進んできたことや、ポスターとたよりに添付している二次元コードから随時参加申し込み可能としていることがこの成果の要因の1つになっていると考えられる。 また、地域クラブ活動として活動していたバスケットボールのチームが単独で運営するクラブチームに移行した。地域クラブ活動から自立活動へと派生したことは、1つの成果ではないかと考えられる。

●今後に向けて

令和8年度は全ての土日に地域クラブ活動の実施を予定している。活動日が増えることで指導者や会場の確保が大きな課題となっている。特に今年度月3回を継続してきた指導者からは、これ以上の指導は難しいとの声が上がっている。今後は、指導者に対する意向調査を実施して無理のない実施回数を検討していきたい。参加費の改定も大きな課題である。補助金を受けて年間5,000円という安価な設定にしているが今後は値上げが必要である。あまり高く設定すると参加したくても敬遠する家庭も想定される。持続可能な活動にするにはいくらに設定するか検討が必要である。

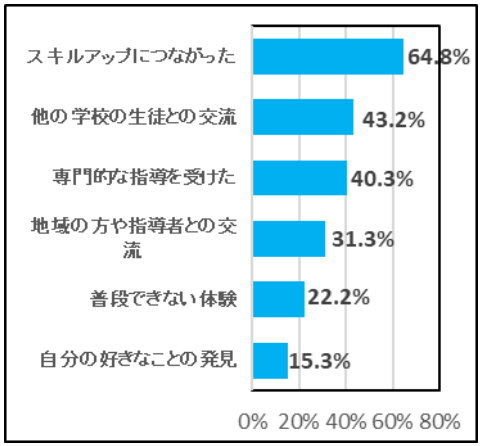
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

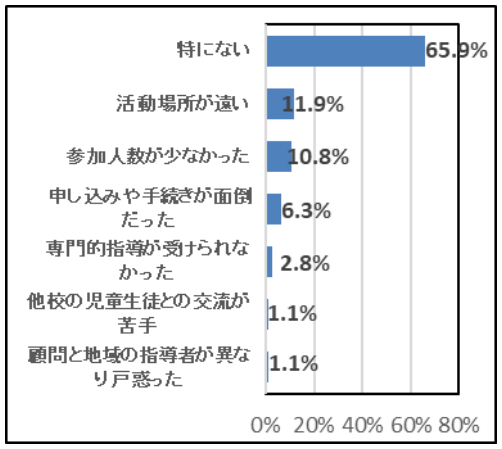
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

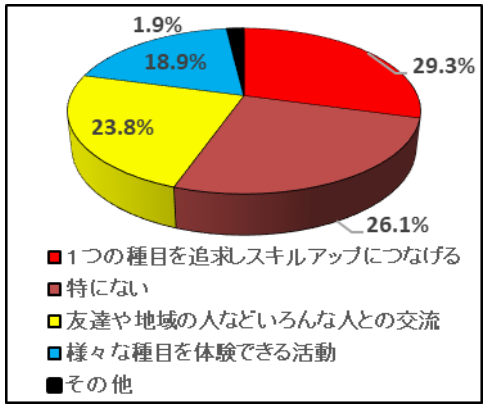
Q佐渡市地域クラブ活動に参加して良かったことは何ですか？（複数回答）



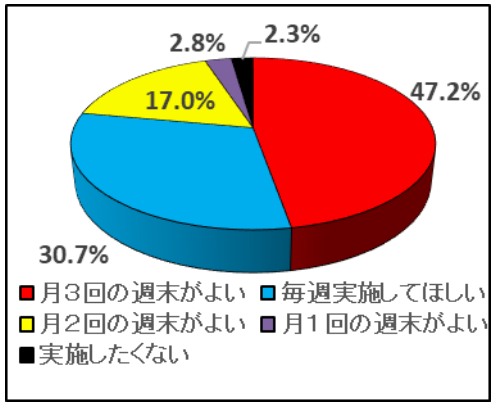
Q佐渡市地域クラブ活動に参加して良くなかったことは何ですか？（複数回答）



Q佐渡市地域クラブ活動がどのような活動になったら良いと思いますか？



Q佐渡市地域クラブ活動の実施回数についてどう思いますか？



佐渡市教育委員会資料

●参加者/関係者の声

小学6年生（水泳）
2時間の練習でしたが泳ぎ方をやさしく丁寧に教えてもらいました。できなかったクロールができるようになったのがうれしかったです。新しい友達もできたので良かったです。次回もやりたいです。

中学1年生（ボルダリング）
ボルダリングが小さいころから好きでたくさんやることができて良かったです。前回できなかった場所にも行けたのがうれしかったです。少しずつ進む距離が延びて楽しかったし友達も増えて良かったです。次回も参加したいです。

保護者（体操）
とても丁寧にご指導くださり感謝です。初めてでも楽しい雰囲気を作って下さり、子どもも笑顔で参加できて安心しました。体の使い方を具体的に教えて下さり、分かりやすかったようです。これからも是非参加させたいです。

指導者（ボッチャ）
今回は参加者が少なかったのが残念でした。多数の参加があればいろいろなゲームができると思います。誰もが楽しめるボッチャやパラスポーツにより、健康で明るい市民づくりができるようにしたいと思います。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【初種目ボッチャの活動】



【佐渡唯一のスキー場でスキーの練習】



【空手の指導】



【マリンスポーツで湖に漕ぎ出す

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年	令和5年			令和6年	令和7年
改革検討懇談会設置、検討開始	協議会の設置	校長会、保護者への説明	地域クラブ活動の開始	地域クラブ活動の月2回拡大	地域クラブ活動の月3回拡大

ステークホルダー

学校、中体連、スポーツ協会、競技団体
市長部局、市教委、コーディネーター

経過

令和4年度より改革検討懇談会を設置し、部活動の地域移行についての検討を開始した。次いで、令和5年度には地域クラブ活動推進協議会を設置し、新たな地域クラブ体制を令和8年までに構築する推進計画及び地域クラブの活動指針を策定した。令和5年9月には月1回の地域クラブ活動を開始した。指導者には、危機管理マニュアルと指導の手引きを配布し、安心安全な活動についての意識付けを行った。令和6年度は、月2回の地域クラブ活動を実施し、令和7年度は、月3回の実施を開始する。現在まで計画通りに実施している。

実施内容

令和5年9月からは市内全13中学校と1中等教育学校において月1回の休日の部活動を取りやめ、地域クラブ活動へ参加する取組を開始した。地域クラブ活動はスキップ型全5クラブ、エンジョイ型全8クラブが実施された。予定した種目のうち、参加者が無かったり気象状況によって開催できなかったりしたクラブもあった。令和7年度は月3回の休日の部活動を取りやめ、地域クラブ活動へ参加する取組を進めている。活動場所の予約や会場の変更等の調整についてはコーディネーターが担当し予定通り地域クラブ活動が実施できるように努めている。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、月3回の実施を進めてきたが、限られた指導者数で実施を続けるのは負担が大きいことが分かった。令和8年度は土日は部活動を完全休止し、地域クラブ活動を展開する計画であるため指導者の意向調査が必要となった。そこで、指導者の意見を取り入れて種目ごとに月の実施回数を設定することにした。

今後の展開

令和8年4月からは、市内すべての中学校において、休日の地域クラブ活動を毎週実施する。また、持続可能な地域クラブ運営とするために、種目ごとに実施回数を決定することにした。指導者の負担軽減を図ることで持続可能な活動になるように進めて行く。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
1　運営団体	教育委員会	地域団体（教委関与）		
	達成目標	地域団体への移行		
2　実施主体	佐渡市地域クラブ （スポーツ団体・文化団体）	佐渡市地域クラブ 既存の地域クラブ	→	地域クラブ（市教委関与）
	達成目標	既存の地域クラブとの連係		
3 指導者確保	７月　教職員の兼職兼業意向調査	４月　教職員兼職兼業意向調査	→	→
	受け入れ団体の指導者を依頼	→	→	→
	達成目標	既存の地域クラブや団体の指導者を依頼		
4 指導者育成	指導技術講習会	→	→	→
	達成目標	指導技術向上のための講習会を実施し、指導者を育成		
5 指導者資格	年１回研修会実施	→	→	→ 指導者マスター制度
	達成目標	現在の指導者の８割程度が「指導者マスター」の認定		
6 会　場	受け入れ団体と使用会場を協議	→		
	達成目標	学校体育館と社会教育施設を活用		
7 会費	廉価な年会費の設定	→	→	→
	達成目標	廉価な年会費と要保護・準要保護家庭への負担補助（継続）		
8 アンケート調査	12 月　現状と課題を把握し、改善のためのアンケート調査	９月　現状と課題を把握し、改善のためのアンケート調査	→	→
	達成目標	令和８年度　休日完全以降に向けて課題把握と改善		
9 検討会	課題と成果の検討	→	→	→
	達成目標	佐渡市地域クラブ活動推進協議会の開催（継続）		
10 予　算		10 月　新年度予算要求　国・県補助金等の申請	→	→
	達成目標	必要予算の整備（継続）		